



# 目白大学新聞

第四九号

二〇二三年(令和五年)九月三〇日  
一九九四年五月十八日創刊

Mejiro University News Paper

No.49

September 30, 2023

編集

目白大学メディア学部

〒一六一八五三九

新宿区中落合四一三一一

TEL

〇三一九九六一三三〇



妙正寺川に展示された反物「川のギャラリー」(編集部員がフィルムカメラで撮影)

## 「染の小道」開催への思い

西武新宿線で高田馬場から2駅の中井・落合の地で、2月24日〜26日の3日間、3年ぶりに大規模開催で行われた「染の小道」は江戸時代から伝わる染物の文化を通して中井の街を活性化させるプロジェクトだ。今回、目白大学新聞編集部の学生10名がボランティアとして参加し、実行委員である東健太郎さんに取材を行った。

染の小道とはどのようなイベントなのでしょう。

染の小道は、新宿の地場産業である染色をテーマに道のギャラリーと川のギャラリーが中心となる街おこしのイベントです。染色を街の観光資源として発信し、地場産業にとどまらない魅力を知らせたいという思いで始まり、イベントとして大きくなられました。

染の小道を開催しようとなった理由は何ですか。

少し先程の話と重なりますが、元々、中井の街の魅力が伝わりにくく、住んでいる人しか分からない良さがあるのですが、誰にでも知ってもらえる発信がしたかったからです。特に世界に向けて、染色の文化を利用すれば、街を発信できるのではないかと思い、始めました。

プロの職人さんだけでは

今回、地域を活性化したいという思い



インタビューに答える東健太郎さん

## 伝統を受け継ぐおかもめ工房

今年の2月下旬に「染の小道2023」が開催され、中井の街にはたくさん染め物が飾られた。そんな中井には「おかもめ工房」という実際に染め物を行っている工房があることをご存じだろうか。ここでは、誰でも染め物を体験できる。今回は、おかもめ工房の山本加代子さんに取材を行った。

染め物はどうやって作るのでしょうか。

私たちの工房は「紅型(びんがた)」なんです。紅型は沖繩の伝統工芸のことを言います。それを東京風に新しいデザインを作ったり、オシャレな色を使って染めるので、沖繩の紅型とはちょっと違う「モダン紅型」という名前を付けました。やり方は、まず型紙を使います。これにのりをおいて白く塗ったところを染めていきます。使っている染料は顔料で、これは土や石、草木などが材料になっています。化学染料ではないので水や油に溶けません。そして、呉汁(大豆を使った豆乳みたいな液体)を使って染料を溶かし、一度で色は作らず、3回に分けて染めていきます。最初は薄く色を染め、2度目は発色をよくするために違う色を入れて、最後に紅型の特徴である、くまというものを残します。それが工



紅型について語る山本加代子さん

業人考えになってしまおうのですが、ジーパンを染めてみるのはいかがでしょうか。

染め物には、半日着てもう一度と着たくわっていただけますか、またきつかけなどありますか。

私自身は20年程着付けに関わっています。元々着物好きだったので、友人の結婚式に出席したのをきっかけに、いつか着付けをさせてほしいなと思って、着付けの学校に行き始めて今に至ります。

着てもらう人に対する思いはありますか。

今日みなさんに着ていただきましたけど、大体、女性だと着る機会が成人式や夏祭りの浴衣、男性は5歳の七五三のときなので、なるべく苦しくないように着方を、インドのサリーの着

着物の文化をどう発信していくか考えたことはありますか。

私はそういうことに関わる機会はないです。でも私自身着物が好きで、YouTubeなどで外国の着方や、インドのサリーの着

## 古き良き暖簾の街

3年ぶりとなる「染の小道」大規模開催ということで、イベントも中井・落合周辺もとても盛り上がりつつあります。妙正寺川には染の小道という名にふさわしい染物店がひかれ、イベントに参加した各店や店舗はその店に合った暖簾を掲げていて、その暖簾を見て回るのも楽しいので、初日はあいにくの雨でしたが、最終日は天気にも恵まれ、イベントが最高潮に盛り上がりを見せました。特に、小道に広がる出店の客引きの声や、イベントに来た地域の人々、さらには海外から日本の雰囲気を感じたいと参加した旅行者など、様々な人々の輪を見ることができ、新型コロナウイルスで失った繋がりが再び取り戻したように感じています。

また、海外から来た方の中には、日本の染物が好きだという方もおられ、日本の高い染物技術に感化されたと話していました。

来場者の年代は幅広く、家族連れや夫婦、友達同士や一人で参加も見られ、中井の細道が人で溢れていました。イベント会場ではラムーズに歩くことが困難な道も多数あり、混雑していました。

昼頃には一段と人が増え、良い天気で迎えた最終日を彩る雰囲気は、より一層コロナが終息しつつあることを実感させてくれました。

左の写真は「カプトムシ」というお店の暖簾です。この暖簾はお店の名前であるカプトムシが色鮮やかに描かれており、現代的なデザインが日本の古き良き暖簾と合わさって、伝統的で素敵な暖簾となっています。



中井の飲食店「カプトムシ」の暖簾

## 人に着付けができるようになりたい

「染の小道2023」で私たち学生ボランティアの着付けを担当したGalleryさんからは和装着付け、着物レッスン、レンタルその他様々なサービスを行っており、「大切な人と」「好きな場所で」「特別な時間を」「思い出しに残る装いで」をキャッチフレーズに活動している。インタビューした方は、人生の中で着付けに約20年程関わっており、着付けの魅力や意外な心情を聞くことができた。

着付けにはいつから携わっていますか、またきつかけなどありますか。

私自身は20年程着付けに関わっています。元々着物好きだったので、友人の結婚式に出席したのをきっかけに、いつか着付けをさせてほしいなと思って、着付けの学校に行き始めて今に至ります。

着てもらう人に対する思いはありますか。

私はそういうことに関わる機会はないです。でも私自身着物が好きで、YouTubeなどで外国の着方や、インドのサリーの着



着付け中のメディア学部生

きつかけになれば、いいなと思います。

着付けは、私達が普段生活している中であまり体験することがない。今回お話をしてくれたように、自分達で「着るきつかけ」を作り是非着付けを経験してみたい。

(編集部3年 山本真希)

新型コロナウイルスの影響のため約3年半休刊していた「目白大学新聞」がやっと復活します。完全復活ではありませんが、大学新聞の火を灯し続けることは大切でしょう。

今号ではコロナのために開催が制限されてきた「染の小道」を特集しました。大学近郊の中井駅周辺で開催される「染の小道」は、やっと今年から大規模開催ができるようになりました。映像も制作しましたので、あわせて観ていただければ世界が広がるはずです。

映像はここをクリック または右のQRコードから



# コロナ前の桐和祭 復活に向けて

10月21日、22日に目白大学で最大のイベントとも言える「桐和祭」が開催される。今年度のテーマは「廻祭（かいさい）」で次のような意味が込められている。「廻」自分のため、仲間のためにしたことは回り回って桐和祭に還元される。「祭」ただ、学校行事を楽しむのではなく、祭りの勢いで楽しむ。また、廻祭の「廻」には、進み歩くという意味があるため、このテーマには無事開催できるように、という祈願の意味も込められている。



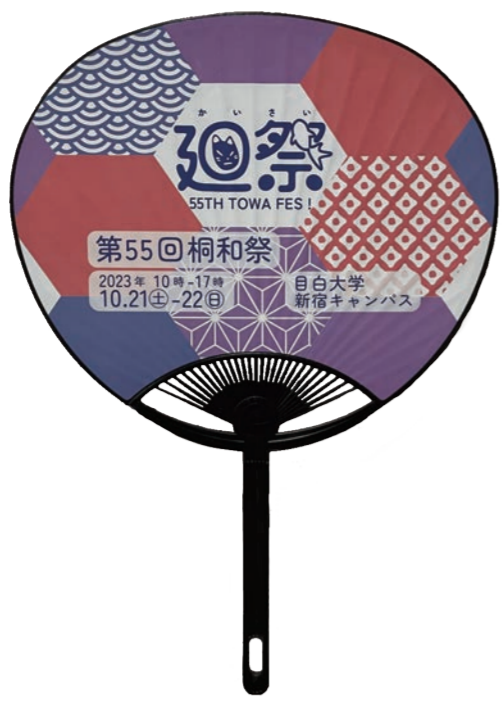
桐和祭実行委員会 会長 小西悠喜さん

## どのような企画が 開催されるか

昨年度に3年ぶりに対面で開催された桐和祭、今年ほどのようなところに魅力があるのか、そして桐和祭はどのようにして開催されているのか、桐和祭実行委員会の会長である、メディア学部3年生の小西悠喜さんに話を聞いた。

## 今年の桐和祭のこだわり、注目は「新しいポイント」

小西委員長によると、「今年の桐和祭の一番の合言葉は『コロナ禍以前の桐和祭の復活』。去年も対面での桐和祭が実現しましたが、制限があった中で開催でした。今年は飲食物や外のステージが復活するなど去年以上にコロナ禍前の桐和祭に戻るので、通常開催の桐和祭の新しい基盤になることを目標としています。」



今年の桐和祭は『お祭り』をテーマに据えています。提灯などの装飾はもちろんのこと、メインアリーナでは緑日をイメージして輪投げやヨーヨー投げなど小さい子が遊べるような場所を作る予定です。さらに10号館の前には、おみくじを引いたりチキンを振ったりすることが出来る『目白神社』と称した場所を設けるなど、会場を通してお祭り気分を味わえる作りに

「桐和祭実行委員会に入ると7つに分かれている部署のうちの一つに加入することになります。その後本部に入り、委員長や副委員長を目指して



第55回桐和祭
〈開催概要〉
開催日 2023年
10月21日(土)・22日(日)
開催時間 10:00-17:00
開催場所 目白大学
目白大学短期大学部
新宿キャンパス

（編集部3年 長島朋哉）

## Student Column

# 成人年齢が18歳に 中途半端な基準

若者の成人年齢が下がったことは知っているだろうか。20歳を迎えた若者は身近に感じやすいことだろう。その中でも話題なのが成人式だ。成人年齢が18歳なので、18歳の人には成人式を行うことになる。他にも引き下げられたことで、保護者の同意がなくても携帯電話の契約などが可能になる。

私は若者の自己の決定権を尊重する姿勢や、18歳での自立することへの後押しとしてこの法令に賛成である。しかし、引き下げられても今まで通り変わらないこともある。それはお酒とタバコは20歳からという法律である。私は現に20歳を迎えているからあまり関わることはないのだが、これについて疑問に思っている。単刀直入に言うと、私は専門家ではないが、18歳も20歳も身体の変化なんてないと感じる。また、別にそんなにお酒を飲みたいのか。タバコを吸いたいのかと問われるとそんなことはないが、こうした新しい制度や法律を始める度に中途半端な課題が出て来てしまうこの国に少し残念なところがあるのではないかと私は考えた。

そこでお酒とタバコも18歳まで引き下げてはどうだろうか。18歳はほとんどの人が高校生という立場であるため、高校の校則として規制するというのが良いのではないかと感じる。私が思うに、国が取り締まることではないと感じるのだ。校則として禁止することで、国の取り締まりを削減できる。

この意見を友人に話すと、「ただでさえ学校の先生の労働時間が問題になっている中でさらに仕事を増やすのか」と言われた。私はコラムでこの内容を取り上げるために友人などに意見を聞いた。しかし、聞いた自分が悪かった。日本人は何か新鮮なことを発言する度に批判で制圧してしまう傾向があると感じる。私は「生活指導部の先生が校則を取り締まることと同じ感じだ」と訴えた。少しは私の意見を理解してくれた。

18歳で社会人になり、先輩や上司との付き合いは大切であることは間違いなく、その場でお酒は重要であると感じるし、成人から働いてお酒を飲まなきゃいけない場も増えてくる。欧米の国々では成人年齢が18歳が多く、合衆国であるアメリカは、州により規制が変わるが、ほとんどの国が成人のルールを一律にしている。こうしたように成人としているのなら、成人年齢の引き下げに伴い全てのルールも一律にするべきだと感じる。

（編集部3年 櫻井雄晟）



# 論文作成をする ChatGPT

「こんにちは！私はChatGPTと呼ばれるAIチャットボットです。自然言語処理と機械学習の技術を使用して、さまざまなトピックについての会話ができます。学習や教育、エンターテインメント、一般的な情報など、幅広いトピックに関する質問にお答えすることができます。」

右記の文章は ChatGPT によって生成されたものである（タイトルも含め）。ChatGPT は世界中でさまざまな目的に活用され、第4次AIブームを引き起こしたとされる。ChatGPT は人々の質問に回答する「AI」多岐にわたるタスクをこなすAIチャットボットである。ChatGPT は、質問への回答、文章や作文の校正においても優れた能力を発揮する。特に注目される機能の一つは、ChatGPT による論文作成である。ChatGPT は論文の一部を代筆するだけでなく、完全な論文の作成も可能である。実際 ChatGPT の名前が共著者として論文に掲載されているケースもある。

しかし、最近では ChatGPT を使用した論文作成に制限が設けられる大学が増えている。例えば、上智大学では原則として ChatGPT による論文規制

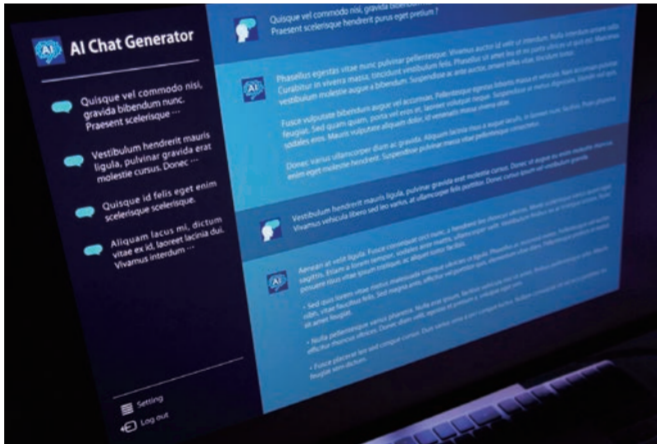
現在も活発な議論が行われている。許容範囲をどこまで設定すべきかは難しい問題であるが、ここで強調したいのは、ChatGPT の限界である。例えば ChatGPT による論文では引用元が明示されていないため、その信頼性や真実性を確認することができない。信頼性の高い論文を作成するためには、別途論文や書籍からの引用が必要となる。また、無料版の ChatGPT は2021年9月までの情報を学習しているため、提供する情報が古い可能性もある。そのため、完全に ChatGPT だけで作成された論文は信頼性に欠ける可能性がある。信頼性のある論文を作成するためには、人間の手を加える必要があると考えられる。

つまり、ChatGPT は多岐にわたるトピックに対応し、論文作成や校正等に活用されるAI

サポートする一助となるであろう。ChatGPT は膨大な論文を学習しており、論文のプロトタイプ作成に適している。論文の構成や校正に客観的な視点を持つ ChatGPT は、論理的な主張を生成する能力にも長けている。

校正や引用を組み合わせたことで信頼性を高める必要がある。ChatGPT の使用に関しては議論が続いており、限界を認識し、人間の手を加えることが重要である。

※本文の作成には ChatGPT を使用している。（編集部3年 石塚千晶）



AI Chat Generator の画面



バンクーバー ダウンタウンの高層ビル

# カナダ旅行記〜アフターコロナ いざバンクーバーへ〜

約3年間続いていた新型コロナウイルスもやっと落ち着いてきた昨今、注目されていることといえば旅行ではないでしょうか。特に海外に行くのは難しかったですが、アフターコロナにより、私も7月にカナダへ行くことができました。



イングリッシュベイ

私は4泊6日でカナダのバンクーバーへ旅行に行きました。初めての英語圏なので緊張していましたが、現地には留学している従姉妹がいて安心して過ごすことができました。バンクーバーは日本とは違い、ほとんどの人がマスクをしていなかったため完全にアフターコロナの状態でした。バンクーバーは自然豊かな街で、ダウンタウンは高層ビルが立ち並んでいて近くには海や山があります。気候は日本と似ていますが、日差しは強いものの夏でも爽やかな風が吹いていて過ごしやすく感じました。最初に訪れたのは、ギヤスタウンにある世界唯一の蒸気時計。レンガ造りの街並みに合ったレトロな雰囲気海外らしさを感じました。そのほかにも、バンクーバーのシンボルでもあるカナダブレイスや多くの店舗を展開するロブソン通りなどダウンタウンには観光スポットが多くあるので、一日中楽しく過ごすことができました。

次に、観光客に人気の人口島グランビルアイランド。徒歩やバスで行くこともできますが、おススメはミニフェリーです。海風を感じながらクルーズ気分を堪能できます。屋内マーケットには野菜や果物などが売られていたりカナダらしいお土産屋もあつたり観光客にピッタリのスポットになっていました。

最後に、バンクーバーからバスで約2時間の場所にあるウィスラー。冬はスキーリゾートタウンで有名ですが、夏はゴンドラで標高2000mまで登ると自然に囲まれた美しい絶景を眺めることができます。山の麓にあるウィスラーレッジはホテルやショップが連なっていて、ウィスラーならではのお土産に出会うこともできました。個人的に訪れてほしい場所のひとつです。

最後は、観光客にも地元民にも人気のあるイングリッシュベイ。ビーチでは海に入っている人やベンチでくつろいでいる人などそれぞれの過ごし方で楽しんでいます。私たちはビーチの目の前にあるレストランで

サンセットを楽しみながら夕食を食べました。サンセットがとても綺麗で、夏は22時頃まで明るいので行くとちょうど見ることができるのでオススメです。

バンクーバーは留学に行きやすい都市としても有名で、街中

でも多くの日本人留学生の姿を目にしました。現在留学している従姉妹はコロナ禍でも1度アメリカに留学を経験していて、今年の2月からカナダに語学留学をしています。従姉妹は今後留学したいと考えている人に対して「留学を少しでもしたい気持ちがあるのなら少し無理をしても行ける時に行かないと後悔すると思います！英語が喋れないとしても自分の努力次第で英語は伸びるし、日本にいたら感じることもできない文化の違いや生活を自分で経験できることが一番のポイントだと思います。留学は目標や目的を決めて自分から行動していくことが大切ですよ」と言っていて、チャレンジしてみる勇気や努力が大切だと感じました。

今回の旅行を通して、日本では見ることができない景色と経験を得ることができました。言語の壁は高く感じましたが、現地の人がフレンドリーに接してくれたり規格外に大きな料理を食べたり、海外だからこその体験を経て世界の広さを改めて実感しました。この旅行で得た貴重な経験を忘れることなく、またカナダに行くことがあればまだ知らない場所を訪れて新しい経験をしてみたいですね。

（編集部3年 佐久間明音）

# 目白大学 新聞

- 編集長 櫻井雄晟
- アートディレクター 黒木菜愛里
- 編集部
  - 青田夏希
  - 石塚千晶
  - 太田琴美
  - 近田南歩
  - 佐久間明音
  - 佐瀬海里
  - 長島朋哉
  - 山本真希